2021年5月2日礼拝説教要約

神が遣わした方は

（ヨハネ3・31～36）

一、だれのことばか？

31節から36節を開いていますが、この区分はだれが語ったことばとして記されているのでしょうか。新改訳2017は、その前の改訂第3版もそうですが、30節の終わりに、終わりカギ括弧が付けられています。カギ括弧は27節から始まります。すなわち、バプテスマのヨハネのことばとして記されています。ですが、原文において括弧はありません。ということは、31節以降も、バプテスマのヨハネが語ったことばとして読むこともできるわけです。引照・注付聖書には、30節の脚注に**〈バプテスマのヨハネのことばをここまでとしないで、36節の終わりまでとして訳すこともできる〉**とあります。そういうわけで、31節から36節までの区分は、次のように受け止めたら良いかと思います。この区分は、バプテスマのヨハネが語ったことばであると同時に、ヨハネの福音書を執筆した著者が所属していた教会が確信していたことばであると。

二、上から来られる方

31節をご覧ください。**〈上から来られる方は、すべてのものの上におられる。地から出る者は地に属し、地のことを話す。天から来られる方は、すべてのものの上におられる。〉**とあります。バプテスマのヨハネは、**〈上から来られる方〉**に、どなたを当てはめたのでしょうか。**〈天から来られる方〉**であるイエス・キリストです。イエス・キリストは、聖書と教会の証言によれば、神であられる方が人として遣わされ、乙女マリアより生まれられた方です。そういうわけで、神が人となられたお方であるキリストのことばを受け入れないのは、神を受け入れないことです。そういう人は、31節に書かれていますように、**〈地から出る者は地に属し、地のことを話す〉**人たちです。キリストを信じない者はさばかれています。36節です。**〈御子を信じる者は永遠のいのちを持っているが、御子に聞き従わない者はいのちを見ることがなく、神の怒りがその上にとどまる。〉**と。その意味は、キリストの福音に耳を貸さなかったら神の怒りが下る、という意味ではありません。私たちが罪の状態にある時、すなわち神の御思いから外れ、あるいはかなり曲がり、あるいは意図的に反逆する意思を持つときに、神と対立状態にあるということです。そういう状態のことを、パウロはローマ書の中で次のように語っています。**〈ローマ1・18〉**

バプテスマのヨハネは、自分がキリストではないと、はっきり語りました。そして30節において、次のように語っています。**〈あの方は盛んになり、私は衰えなければなりません。〉**と。どうして、こんなに謙虚に受け止めることができたのでしょうか。それは、バプテスマのヨハネの思いが天に属していたからです。ゆえにヨハネにとっては、ごく自然なことでした。当然のこと、キリストを信じる私たちもそうです。キリストを信じ、信仰表明である水のバプテスマを受けたときに、古き人は死んで、新しい人によみがえりました。

三、救われた者の姿

33節をご覧ください。**〈その証しを受け入れた者は、神が真実であると認める印を押したのである。〉**とあります。紀元1世紀のローマ帝国が統治する時代においては、印章は重要であったことが分かります。ちなみに、「認める印を押す」と訳されたことばが、別の箇所では次のように使われています。それは、コリント人への手紙第二1章22節です。**〈神はまた、私たちに証印を押し、保証として御霊を私たちの心に与えてくださいました。〉**と。こちらは、神が私たちキリストを信じる者に印を押されたという意味で使われています。

四、神が遣わした方

最後に、34節を見てまいります。**〈神が遣わした方は、神のことばを語られる。神が御霊を限りなくお与えになるからである。〉**とあります。**〈神が遣わした方〉**とは、イエス・キリストを指しています。キリストは、神のことばを語られました。ここに書かれている**〈ことば〉**は「ロゴス」ではなく、「レーマ」の複数形です。主イエスが語られた数々のことば、という意味になります。なにゆえに、神のことばを語られたのでしょうか。「神であったから」と言ってしまったら、それまでなのですが、聖句は語っています。**〈神が御霊を限りなくお与えになるからである。〉**と。神が人となられたイエス・キリストに、常に御霊が、すなわち聖霊なる神が臨んでおられたと、受け止めることができます。聖霊が臨むと、人は神の御思いを語る者となります。旧約時代の預言者たちがそうでした。ゆえに、預言者は主なる神の御思いを語り続けました。

では、私たちはどうでしょうか。私共にも、聖霊なる神が臨まれることにより、語るべきことばが心に、くちびるに授けられます。しかも**〈限りなく〉**です。

主イエスはおっしゃいました。**〈ルカ12・11～12また、人々があなたがたを、会堂や役人たち、権力者たちのところに連れて行ったとき、何をどう弁明しようか、何を言おうかと心配しなくてよいのです。言うべきことは、そのときに聖霊が教えてくださるからです。〉**と。これは、説明されるまでもなく、皆さま方が経験しておられることです。